

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年三月度 入選句（投稿総数三千三百七十四句・一般投句数五百二十八句）

特選

川 渡 る さ ら し 漢 に 雪 し ま き

大垣市

佐久間 敏雄

節分会のはだか祭で、「みそぎの川渡り」の様子である。今年も二月三日には、全国各地で「節分会」が行われ、「さらし男」が「みそぎ」をする行事が行われた。地元大垣では「ひだりめ不動」の愛称で知られている「宝光院」において、杭瀬川の流水で厄をはらう「みそぎ川渡り」があった。「さらし漢（おとこ）」の肌の赤みとさらしの真つ白なようす。それだけでも寒々としているが「雪しまき」と雪がとどめなく漢に降りかかる様子。さらしの白さは、その色に同化し、赤肌の男達の勇ましさが見えるようである。

「男」を「漢」で表記すること、普段の男性ではなく、何か特別な「男」を印象づけている。また、「さらしの白」「雪の白」が、その「漢」に何か訴えているように感じるのだが、皆さんはどのように鑑賞なさるでしょうか。

雛 か ざ る 終 の 栖 と 決 め し 家

岐阜市

宮西 美代子

一般的に、女の子が生まれたら嫁の実家から、健康で育つてほしいという願いで送られる「ひな人形」。そのひな人形は、いつの時代からか、また、人によつては、嫁ぎ先に持つていつて飾ることが多くなつた。「ひな人形」は、自らの厄を身代わりとして受けることが出来るという、そんな言い伝えがあるからである。

掲句は、嫁いだ先での「雛飾り」の場面であろう。雛飾りは、結婚式の様子が表されているという。お内裏様とお雛様が、必ず並んでいるのだが、嫁いだ先の家を「終（つい）の栖」としての「覚悟」がよく表されている。それは「決めし家」と言い切っている結句がこの句を力強くしている。

遠 ざ け て ま た 近 づ け る 春 暖 炉

岐阜市

花川 和久

今年の天候は「不順」であつた。春になつたばかりなのに、二〇度近くまで気温が上がった日もあつた。三月に入つて、大寒波が日本列島を襲う。仕舞つてあつたストーブをまた出さなければならなかつた。

「遠ざけてまた近づける」の措辞によつて、「暖味さ」「はつきりしない」様が描き出されている。下五の「暖炉」はストーブや炬燵などが想像できるが、「暖炉」なら何でもよい。「暖炉」は冬の季語だが「春」の温かさをイメージするものに「暖炉」の寒い時に使うものが一つになつたことで、この句の意味を深くしている。今年の異常気象をよく表している句である。

秀逸

味噌汁の変わらぬ味や寒和む

大垣市

安田 むつ子

残雪のゆるりゆるりと日にほどけ

大垣市

吉田 てるみ

シヤガール展出でて余韻の春夕べ

愛知県名古屋

舘野 茂子

髪切つてうなじ離れぬ余寒かな

養老郡養老町

田中 紫香

水温む水琴窟の音柔し

大垣市

新町 恵子

寒風に洗濯物のちぢみゐて

大垣市

安田 悦子

糴や店員どこも多国籍

岐阜市

小湊 順子

蒼天の虜となりし梅一輪

千葉県印旛郡

寺嶋 和江

風光る少女縄飛び髪も飛ぶ

愛知県額田郡

平松 京師

早春の電池新たな万歩計

大垣市

鈴木 美江子

入選

冬北斗夢の行方を定めけり
つくばひの朝日に光る薄氷
春待つや同じ病を語り合ひ
窓拭きの夫の眼鏡や山笑ふ
子雀の来る駐在の出窓かな
紅梅の紅は地軸の血潮とて
寒の月残し終バス発ちにけり
凡々と時過ぎゆきて梅ふふむ
初稽古師とは真逆のジャズダンス
真夜中に鳴り出す電話呀へ返る

埼玉県所沢市	獅子谷 雪
大垣市	永島 みすゑ
大垣市	平野 ヒサエ
養老郡養老町	山田 順子
東京都世田谷区	関戸 信治
大垣市	伊藤 鈴子
大垣市	日比野 友子
大垣市	松岡 みつ
大垣市	佐久間 美佐子
揖斐郡池田町	木塚 しょう

入選

仕合わせは人それぞれやまだら雪
歩み出す杖の先より日脚伸ぶ
雪しんしん天地の境包みけり
太筆のはねてかすれて春兆す
肩車天へすず振る破魔矢かな
毛繕ひしてそそくさと恋の猫
吊りひひな綺羅の軒先脇本陣
三月の水まだ重し鯉の黙
薄氷や全て割れおる通学路
ぽつぽつと鳩の念仏涅槃西風

大垣市	平野 きぬよ
岐阜市	花川 和久
羽島郡笠松町	易田 喜芳子
岐阜市	島 めぐみ
福井県敦賀市	山田 美千代
大垣市	早崎 美弥子
大垣市	尾関 逸子
大垣市	田中 雅子
広島県福山市	中常かつらろー。
大阪府大阪市	梅田 紀江

選者吟

ゆく雲になにか言いたげ露の臺

永 山